

町村議会議員研修会報告

期 日：令和3年10月20日(水)
午後1時～午後4時10分

場 所：とうほう・みんなの文化センター

出席者：議員全員

研 修：1. 住民から信頼される議会になろう
(早稲田大学マニユフェスト研究所
事務局長 中村 健 氏)

2. 今後の政局・政治展望
(ジャーナリスト 長谷川 幸洋 氏)

国見町議会

東海林 一 樹 議長	・ ・ ・ ・ ・	3
松 浦 常 雄 副議長	・ ・ ・ ・ ・	4
八 島 博 正 議員	・ ・ ・ ・ ・	6
浅 野 富 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	7
渡 辺 勝 弘 議員	・ ・ ・ ・ ・	9
佐 藤 定 男 議員	・ ・ ・ ・ ・	10
村 上 一 議員	・ ・ ・ ・ ・	11
小 林 聖 治 議員	・ ・ ・ ・ ・	12
山 崎 健 吉 議員	・ ・ ・ ・ ・	13
宍 戸 武 志 議員	・ ・ ・ ・ ・	14
八 巻 喜治郎 議員	・ ・ ・ ・ ・	16
蒲 倉 孝 議員	・ ・ ・ ・ ・	17

議会行政調査報告書

令和3年10月27日

国見町議会議長 東海林 一樹 様

国見町議会議員 東海林 一樹

【内容】

研修会では、二人の講師による講演が行われました。

最初に、「住民から信頼される議会になろう」と題して、その進め方についての内容でした。講師の中村健氏は、27才で徳島県川島町の町長を2期務めたという特異の経歴を持つ人物で現在は早稲田大学マニフェスト研究所事務局長を勤めています。それだけに普通とは異なった目線で物事を眺めることのできる話が聞けたのではと感じました。

また、二人目の講師は、ジャーナリストの長谷川幸洋氏で中日新聞の記者として活躍された後、独立してジャーナリストとして活躍中の方であります。話はアメリカ軍がアフガニスタンから撤退したことで世界はどうなるのかということから始まり、終盤は岸田内閣総理大臣の人柄に至る話を面白く話してくれました。

【感想】

県町村議会議長会の開催する研修会は講師が充実しており、今後も続けるべきだと思います。

以 上

議会行政調査報告書

令和3年10月27日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 松浦常雄

【内容】

講演1 「住民から信頼される議会になろう」

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健氏

- (1) これからは、「地域を経営する」という考えが大切。
「地域を経営する」とは、「こういう地域にしたいというゴールを描いて、それを達成するためにシナリオを作り、実行していくこと」
- (2) 新型コロナウイルスにより通常の議会運営は不十分になった。
 - ・議会として住民の意見を聞く機会が少なくなった。
 - ・議員が議論する機会が少なくなった。
 - ・住民と議会の情報を共有する機会が減少した。(議会報告懇談会ができない)
- (3) これからの議会はこう変わる
 - ・タブレット端末の導入が進む。(ペーパーレスの時代に移行していく)
 - ・オンラインによる会議の開催が進む(取手市の事例)
 - ・オンラインによる視察・研修(奥州市の事例)
- (4) 災害時の議会活動(平時に準備すべきことは)
 - ・災害時の議会または議員の行動指針を作成する必要がある。
 - ・ICTの活用(久慈市議会の事例)
 - ① 街路灯を設置するのに適した場所をパソコンの地図で確認した。
 - ② 選挙ポスター掲示場の見直し・・・パソコンの画面を利用し、設置箇所を減らした。・・・経費節減できた。
- (5) 地方議会と住民との新たな関係・・・長野県高森町役場の事例
「子育て支援に力を入れる」と総合戦略へ記入した。
 - ・縦割りの弊害をなくし、すべての課が「子育て支援策」を考えて実行した。

- (6) これからは、議会の力で地域に差ができる。
・情報公開から情報共有へ ・住民参加から住民参画へ

講演 2 「今後の政局・政治展望」 ジャーナリスト 長谷川 幸洋氏

[講演の感想]

講演1(これからの議会のあり方について参考になる事例が多く示され、
大変よかった。)

講演2(これまでの政局及び、今後の政局・政治展望を明確に解説してく
れて、大変参考になった。とてもよい講演で会った。)

以 上

議会行政調査報告書

令和3年10月22日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八島博正

【内容】

(1) 中村 健 氏

- ・27才で町長に当選しており、全国最年少の首長を2期務めており、実務経験からの意見は非常に参考になった。
- ・全国の中で、特徴的に住民に信頼されている議会を運営している議会名を挙げながらの講演は非常に参考になった。
- ・現在の多くの町村議会の運営は、20年、30年前と全然変わっていないため、大きく世の中の変わった中では、住民との意識とに大きなギャップがあり、住民の要望に答えていない議会の改革が必要である。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月25日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 浅野富男

【内容】

講演は自己紹介から始まった。徳島県池田町(合併により現在は三好市)生まれで福島大学経済学部の卒業と言うことである。その後特筆すべきことは1999年(平成11年)徳島県川島町長に就任したとのことである。当時は27歳の町長誕生ということで最年少の町長と報じられたそうだが、当然のこととして議会に臨まなければならないが、議案は修正か、否決となり、80人余りの職員からは「とてもついていけない」との嘆き声が寄せられることになったとのこと。その後2期目の途中で町村合併となり退職したが、その理由が異色である。「君のような馬鹿者が市長になったら住民が不幸になる。もう一度地方自治を勉強しなおしてから政治に戻るのが良いのではないか」。これは現在も所属する早稲田大学マニフェスト研究所の当時の所長で北川正恭氏に言われたことであるが、そのまま受け止めたことで「住民から信頼される議会」にたどり着いたものと思う。

「傍聴」とは？から本題に入る。議会は傍聴者に対して住所、名前を書かせていませんか？これは設問である。住所、名前を書かせる行為は、「おまえは誰だ、名を名乗れ」と傍聴者に言っていることになる。また傍聴席ではなく「参画者席」ではないのか。「住民参加と議会機能の向上」を言うのであれば、このような視点こそが確かなことである。

「事業」についてはそこに「解決したい何かがある」、どのように解決するのか…構想を描く、ゴールを決める、これが事業の本質でもあり、経営の意味でもある。講師

は2030年の役場はどのようになっていますか、地域はどのようにしたいですか、このように問いかけながら「事業」とは、「経営」とはについて話を進めた。また子育て支援を例題として「役場」についての話もあった。自治体では通常は住民福祉部門の担当となる事業であるが、他の部署は関連性がないのか。子育て支援には減税、水道料金、保育所では駐車場の整備など他の部署での事業も関連性は大きいことから、その部署だけの仕事ではないこと。この事こそが「役場」のやるべき事として、改めて視点を変える、考え直す必要がるのではないかとの話である。

議会の権限については、住民からの訴訟の場合の費用や、夕張市の財政破たんなどを例として、議会はなぜ認めたのか、議会が認めなければ執行できないことを考えれば、その権限は重大であることを改めて考える必要があること。

住民参加と住民参画の違いとして住民参加は「議会がいま行っていることに加わること」となり住民参画となると「議会がこれから行うことに加わること」の意味となる。議会報告懇談会の持ち方についても議論が必要となるのではないか、また議会に於ける慣例、議案に対する調査など視点を変えた見方、考え方を教えられた講演であった。

以 上

議会行政調査報告書

令和3年10月26日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 渡辺勝弘

【内容】

住民から信頼される議会になろう！

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏
議会は「こういうもんだ」という思い込みは、確かにあるかも知れない。しかし、この世界に入って、先輩議員の皆さんに教えて頂き、様々な経験を積んで進んできている。決して間違っているとは思えない。「住民の声を聴く」の「住民」は、自分と話してきた人であると思う。議員一人一人が住民から話を聴くことで、より多くの住民からの声を聴くことができると考えるが、全ての住民からの声であるとは言えない。そのためにも、足を運び、話を聞き、動きがある議会を見てもらうことにより、議会に無関心な人を一人でも多く何かあれば参加する人に変えていくことが議員の課題と考える。住民から信頼される議会とは、信頼される議員になることであるが、果たしてどの様に住民と関わっていくことで、信頼される議員と認めてもらえるか永遠のテーマだと思う。

今後の政局・政治展望

ジャーナリスト 長谷川 幸洋 氏
世界情勢については、アメリカ軍のアフガニスタン撤退による、アメリカ合衆国の情勢や尖閣諸島や台湾問題など今後の日本とアメリカの関係など、中国の民主化から共産主義へ戻ってきている現状。また、「文化大革命」の再来ではないかと面白く説明いただいた。
これからの政局ということで、講演をいただいた。解散総選挙についての予想や政局の動きなど地方議員として、どのように進んでいくのかを注視しながら政局をみていかなければならないと考える。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月21日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 佐藤定男

【内容】

1. 住民から信頼される議会になろう！（講師：中村 健 氏）
 - 議会はこういうもんだ、と刷り込まれていないか
 - ・住民の声を聴くというが、この住民とは誰か（青少年、老人、子供…）
 - 2030年の役場、地域はどうなっているか
 - ・ゴールを描いて、それを達成するためにシナリオを作り実行していく。
 - 議会に求められる役割は大きく変わった（改革から変革へ）
 - ・業務プロセスや事業構造を抜本的に見直し、組織そのものを変えていく。
 - これからは議会力の差で地域に差が生まれる
 - ・行政の様々な業務は AI にとって代わられるだろう。しかし民意の集約や議論、企画、決定というプロセスは、ますます複雑・繊細に求められる。

2. 今後の政局・政治展望（講師：長谷川幸洋 氏）
 - 世界の情勢は大きな転換期を迎えている。
 - ・アメリカのアフガニスタン撤退は戦略を間違った。期日を表明したがために十分な成果を得られず、ヨーロッパ諸国からも不満が募った。
 - ・中国も当局の規制強化が厳しく、毛沢東の第2の文化革命か？とも危惧される。台湾、尖閣列島の問題も強気で攻めてくるのではないか。
 - 岸田政権が誕生したが大きな変化はないであろう。
 - ・総裁選の勝ち組と、負け組の党内のバランスが今後どうなるか、衆議院選挙の結果はどうなるか、今後の政局は不透明である。

3. 【意見・感想】
 - 簡単に住民の声を聴く、というが具体的にどうするのを考える必要がある。
 - 社会の変化に対応した議会はいかにあるべきか、議員一人一人が考えていかなければならない。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月26日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 村上 一

【内容】

1)住民から信頼される議会になろう！

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健氏

《事例》

太田市議会では本会議傍聴の際、住所・氏名の記入が必要なく、乳幼児や児童の入場も可能となっており、住民が誰でも気軽に傍聴できる開かれた議会である。

愛知県犬山市は市民参加により、議会機能の向上が図られた。

長野県高森町では建設課が子育て支援についてできることを取り上げ実行したことが他の部署にも波及した。

久慈市議会はICTの活用(タブレットの使用)で、災害時に活用された。議員は地域の現状がわかり、早急に対応できる。

《議会改革・あり方について》

制度や政策・予算や計画を変えられるのは議会。しかし、議会がまとまらなければ実現しない。議会は地域課題を解決し、地域の未来を創造する権限を有している。

2)今後の政局・政治展望

ジャーナリスト 長谷川 幸洋氏

アメリカは、アフガニスタン撤退によるバイデン政権の失政により、財源不足など経済的にも政策的にも大変になっている。

中国は、強権政策や不動産 33 兆円の負債、共同富裕層の撤回などにより、経済的にも政権も不安定になっている。

日本は、岸田政権が安倍政権を引き継いでおり、不安定要素が多いのではないかと。

【感想】

中村氏は徳島県川島町長を 27 歳で経験しており、地方行政に詳しく分かりやすい講演で、有意義な研修会であった。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月27日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 小林聖治

【内容】

①緊急事態宣言下における議会、災害時における議会活動、地方議会と住民との新たな関係などについての講演を聴いた。

②アメリカのアフガニスタンからの撤退、中国の覇権主義、台湾問題、岸田自民党政権についての講師の所感を聴いた。

【感想】

①主に、住民と議会との関係、地方議会の役割、新しいツールを使った議会の様子など、全国各地の議会での実例を挙げた講演だったが、私には、全体的に理想論的な話の展開であり、まだまだすべての地方議会では実現が難しいだろうという感が否めなかった。

私には、これらのことを突き詰めていくと、議会(議員)というものが不要ではないかと思われ、直接執行者(部)と住民だけで事足りて、議会(議員)の存在意義が希薄な感じになってしまうのではないかと思われた。

そもそも、この理屈では議会(議員)同様に、住民の意識も高まっていかなければならないし、頭でっかちな人が机上で理想論を振りかざしているような感触を受けた。

私自身、頭が固いのかもしれないが、議員は、アナログ的といわれようが、住民一人一人と向き合い、相談・議論をするのが大切で、新しい ICT というツールを使うとしても、その使い方は、それとは少し違って来るなと思われた。

ただ、すべて否定しているのではなくて、いろんな考え方の中で、ここでいうようなひとつの方法論として、理想があっても良いのかと思う。

②このジャーナリストがテーマに挙げた国際問題、領土問題の話については、常に私も興味をもって、様々な情報、ニュースを見聞しており、とくに、真新しいものはなかった。

ただ、岸田自民党政権の今後については、むしろこちらの方がこのジャーナリストの専門らしく、楽しく聴くことができた。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月24日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 山崎健吉

【内容】

1、住民から信頼される議会になろう（講演）

早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

- ① 議会はこのものだと思いますか？
- ② 住民の声を聴くと言いますがあなたが聴いている住民とはだれか？
- ③ 2030年の役場・地域は思い描いた方向へ向かっていますか？
- ④ 議会に求められる役割は大きく変わった。
- ⑤ 議会力の差で地域に差が生まれる。
- ⑥ 情報や議論が変われば結果が変わる。
- ⑦ 他市町村の具体的な取り組みについて。

2、今後の政局・政治展望（講演）

ジャーナリスト 長谷川 幸洋 氏

- ① 2021年夏から世界が大きく動いている。
- ② 現在の日本の情勢と世界情勢について。

【感想】

議会は二元代表制であり、行政は議会の承認がなければ町民への福祉施策等、執行が出来ないことの重要性を再認識した。また、時代の変化や生活環境のスタイル等にあわせ、より快適に環境を整えていく事が議会の改革にも繋がるものと感じた。

以 上

議会行政調査報告書

令和3年10月20日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 穴戸武志

【内容】

I, 住民から信頼される議会になろう！

講師 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健氏

1●住民から信頼される議会になろう！

- ① 「議会はこうゆうものだ」との思い込みがあるのではないか。住民の声を聴くとゆうが実態はどうか。議会の傍聴を例にとってみる。昔からの規則等で対応しているのではないか。何ら不自然を感じてはいないのではないか。そこが問題になっていると指摘。住民のための議会である。自由に傍聴させるのが筋ではないか。過去のやり方を踏襲するのみ。これでは議会は住民との距離を離すことはあっても、縮まってはいかない。よく考えるべきである。

2●議会に求められる役割は大きく変わった

- ① 議会も時代の変化に合わせて改革と変革が必要である。ICT の積極活用。情報の活用、今まで十分に活用したか。そういうことも含め、議会のあり方等再度の見直しが必要である。(根底に、議会は誰に何の役割をはたすのか、一旦、白紙から見直す必要がある。)

3●これからは議会力の差で地域に差が生まれる。→議会の重要性が増す。

- ① 制度や政策・予算や計画を変えられるのは議会しかない。議会は地域課題を解決し地域の未来を創造する権限を有している。変えられるのは議会しかない。議会の重要性を再確認する。

4●情報公開から情報共有へ・住民参加から住民参画へ

- ① 紙文化(情報公開)からIT文化(情報共有)へは共通理解・共通認識をつくるため必要である。
- ② 住民参加(議会が今おこなっていることへ住民が加わる)から住民参画(議会がこれからおこなうこと)へ住民が加わる。例えば、執行部から議案提案⇒議

運⇒議会内で議題抽出⇒住民⇄意見⇒議会と住民が議論⇒議決の後公表⇒住民 この工程が理想である。

【感想】

全く同感です。議会内を見回すと今までこうやってきたから、こうすべきである。ということが多いのではないか。その方が楽であり、ことがスムーズに進む。波風が立たない。回りが変わっているのに、内輪が変わっていない。それに気付いていない。それでは、住民の理解がえられないのではと考える。議会改革はほど遠いと感じる。理想とする住民目線・住民主体の議会とはかけ声だけに終わってしまう。外からみたら魅力のない議会に映るのではないか。この研修内容を素直に受け止め大いに参考にする。いい刺激となった。

Ⅱ, 今後の政局・政治展望

講師 ジャーナリスト 長谷川幸洋氏

- 1●世界の情勢はアメリカ・中国 2 大国の動向がカギとなる。特に、中国の動向に注意すべきである。
2大国の動向次第では日本に、多大な影響を及ぼすおそれがある。(台湾・尖閣問題)
- 2●日本政治の行方
 - ① 岸田内閣の誕生で政治は混沌とする。岸田・麻生・甘利グループ 安倍・二階堂グループ 今回の選挙の負け組派 河野・小泉・石破グループの三つどもえ。
 - ② 今回の選挙はほぼ現状維持だろう。

【感想】

政治の世界は株価と同じで将来のことはわからないと再確認させられた。どの方向・どの位置でみるかによって見方・解釈もかわる。例として、文藝春秋 10 月号財務事務次官の寄稿文の解釈がいい例と感じた。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月26日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 八巻喜治郎

【内容】

初めて参加する研修会であり、期待をして参加しました。

2名の講師による研修は、議員としての問題のとらえ方について大変参考になりましたが、いま於かかれている地方町村の現状を考えてみますと改善する点があると感じられました。

住民から信頼される議会になろうと題して中村健氏の講演は、今後の議会の在り方について参考になりました。現在は、議会改革が県内はもとより全国で叫ばれておりますが、その主たる目的は議員定数と議員報酬の問題であり過去に見直された事案であります。住民から信頼を得る議会になる事とは離れていると私は思います。議員を減らし、報酬も減らす事は、今後の議員活動に非常に影響する重要な事案であり危機感さえ私は覚えます。住民の意見を町政に反映させようとして議員になった私の考えとは離れていると思われまます。もっと地域住民の意見を求める議論をすべきと思うからです。そう云った議論が少なくなった為に、住民の皆様は議員を減らした方が良い、いらぬとか、議員は役に立たぬとか、税金の無駄使いなどと言われてしまうのだと思います。(個人的な考えであります。)今こそ議員として大切な時であると思ひます。

今後の政局・政治展望と題して長谷川幸洋氏の講演はジャーナリストとしての経験の豊富さに驚きました。また、政界の裏話的な話も述べて頂き、講演会そのものであります。未来の日本は国民が決めることであると言つてほしかったと思ひます。

今後は、議会研修会だけではなく、いろいろな機会を通じて議員としての研鑽に努めていきたいと思ひます。

以上

議会行政調査報告書

令和3年10月25日

国見町議会議長 東海林一樹様

国見町議会議員 蒲倉孝

【内容】

1. 「住民から信頼される議会になろう！」

【講師】 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏

徳島県池田町(現三好市)生まれ 福島大学経済学部卒業(ボート部)
JR四国社員を経て、平成 11 年全国最年少(27歳)で川島町長当選
恩師(元三重県知事 北川正恭 氏)から地方自治を勉強し直すよう
指導があり、早稲田大学院公共経営研究科に入学し学ぶ

① 傍聴人はなぜ住所・氏名を書かなくてはいけないのか？

- 傍聴規則は昭和 30 年ごろから訂正なし
- 北海道福島町議会は「参画者」にしている(4~5 年前規則を改正)
- 太田市議会の傍聴案内は素晴らしい⇒乳幼児や児童の入場も可能

② 議会だより ⇒ 住民の声を聴く？ 住民とは？

- 住民といってもいろんな人がいる⇒議会に参加する人・無関心な人など
- 愛知県犬山市議は、市民スピーチを年 4 回(一般質問同様)行っている
- 急激な社会変化が起きている

	昭 和	平 成	令 和
銀 行	窓口でお金の 出し入れ	ATMでお金の 出し入れ	自宅に居ながら お金の出し入れ
買 い 物	商店で買う	大型ショッピング モールで買う	自宅に居ながら 買い物

③ 2030 年の役場はどうなっていますか？ … 8 年後

- デジタル化 ⇒ 2025 年まで 2 万 2 千程度ある行政手続きの 98%

- 来させる ⇒ 来ない
 - 書かせる ⇒ 書かない
 - 待たせる ⇒ 待たない
- ④ 2030年あなたの地域はどうなっていますか？
- 経営とは？ ⇒ 構想を描き実行する事
 - 重視したい視点はアウトカム
 インプット(いくら使った)→アウトプット(何をした)
 →アウトカム(このような実績があった…実績等)
- ⑤ 議会に求められる役割は大きく変わった
- 議会が決めないと(可決)執行部(首長)は動けない
 - 改革＝リフォーム(時代の変化や生活環境のスタイル等にあわせ、
 より快適に環境を整えていく事
 ⇒ 変革＝トランスフォーメーション(業務プロセスや事業構造を抜本的
 に見直し、組織そのものを変えていく事
- ⑥ 情報が変われば議論が変わる 議論が変われば結果が変わる
- 子育て支援に力を入れる(長野県高森町…人口12,000人)
 ⇒ 縦割りを乗り越え「建設課」が地域のママ達と意見交換
 ⇒ ママ達の意見を聞き、当初予算の改善内容を変更して要望に応えた
 - お金の使い方が変わらないと住民の要望は変わらない(本当に声を聴く)
 … 予算が変わらない→決算(実績)が変わらない
 →住民の要望は変わらない
- ⑦ 議会力の差で地域に差が生まれる
- 制度や政策、予算や計画を変えられるのは議会
 ⇒ 議会がまとまらなければ実現しない (チーム議会)
 - 議会は地域課題を解決し地域の未来を創造する権限を有している
 - 議会の視点が変われば予算の付け方、計画の作り方が変わる
 (執行部が変わる) 執行部が変われば地域が変わる

2. 「今後の政局・政治展望」

【講師】 ジャーナリスト 長谷川 幸洋 氏

千葉県生まれ

ジョンスホプキンス大学高等国際問題研究大学院(SAIS)で
国際公共政策修士(MIPP)

中日新聞社に入社(東京新聞)ブリュッセル支局長を歴任

- ① アメリカのアフガニスタン撤退
 - 10年で収まり付いていたが20年駐在し汚職まみれ
 - パスポートを持っている民間人を置き去りにして兵士が全員撤退
 - ホワイトハウスのこの失態を中国が見ている
- ② 中国は第2の文化革命が起きている(毛沢東と同じ)
 - 習近平の勉強
 - IT企業の抹殺
 - 英語教育の廃止 ⇒ 塾が全て潰れた
 - ジャニーズ系の淘汰 ⇒ 男らしい男の教育(中国はアメリカと戦うんだ)
 - 強権(狂犬)的政策
- ③ 日本の危機
 - 台湾は中国に取られる
 - 台湾との条約がない、外務省も動いていない
- ④ 岸田はつまらない
 - 何をやりたいかわからない
 - 後ろで外務省が動かしている
 - ⇒ 今まで日本を造って来たのは「外務省」

【感想】

- ◇ 同じ疑問を持つ方が居てうれしく思いました。
傍聴人の方の住所氏名や、音を立てたりすると執行部がザワついています。
この状況では、太田市のように「ママさん達や乳幼児」傍聴できないと思います。
⇒ 現状では、Webで傍聴となると思いますが。

- ◇ 予算・決算については、質問もしましたがやはり講師が話していた通り、もっと審議が必要と感じました。
- ◇ 「チーム議会」という言葉にも賛同いたしました。今の国見町議会には、一番必要な事だと思います。変更・訂正して欲しい議案には、議員の考えを纏め徹底して改善を求める姿勢が必要だと思います。
是非、＜チーム国見町議会＞を結成していただきたいと思います。
- ◇ ジャーナリストの長谷川講師の講演は、毒舌し過ぎて私には合わない内容と感じました。

以 上